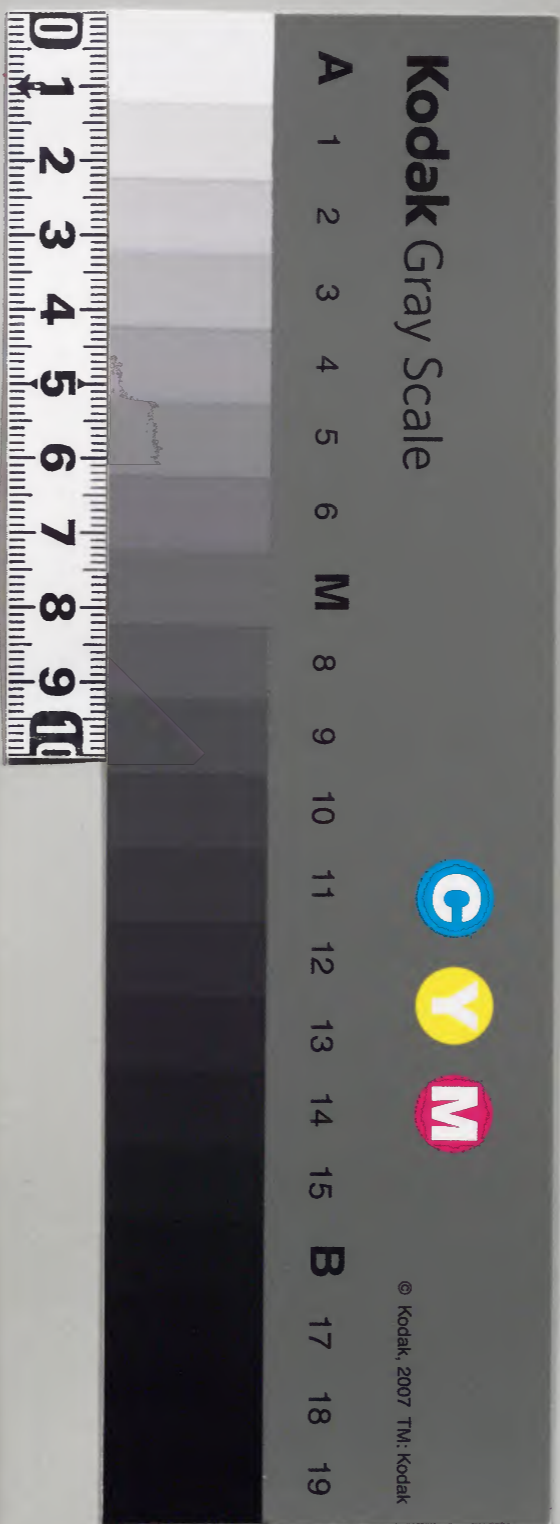


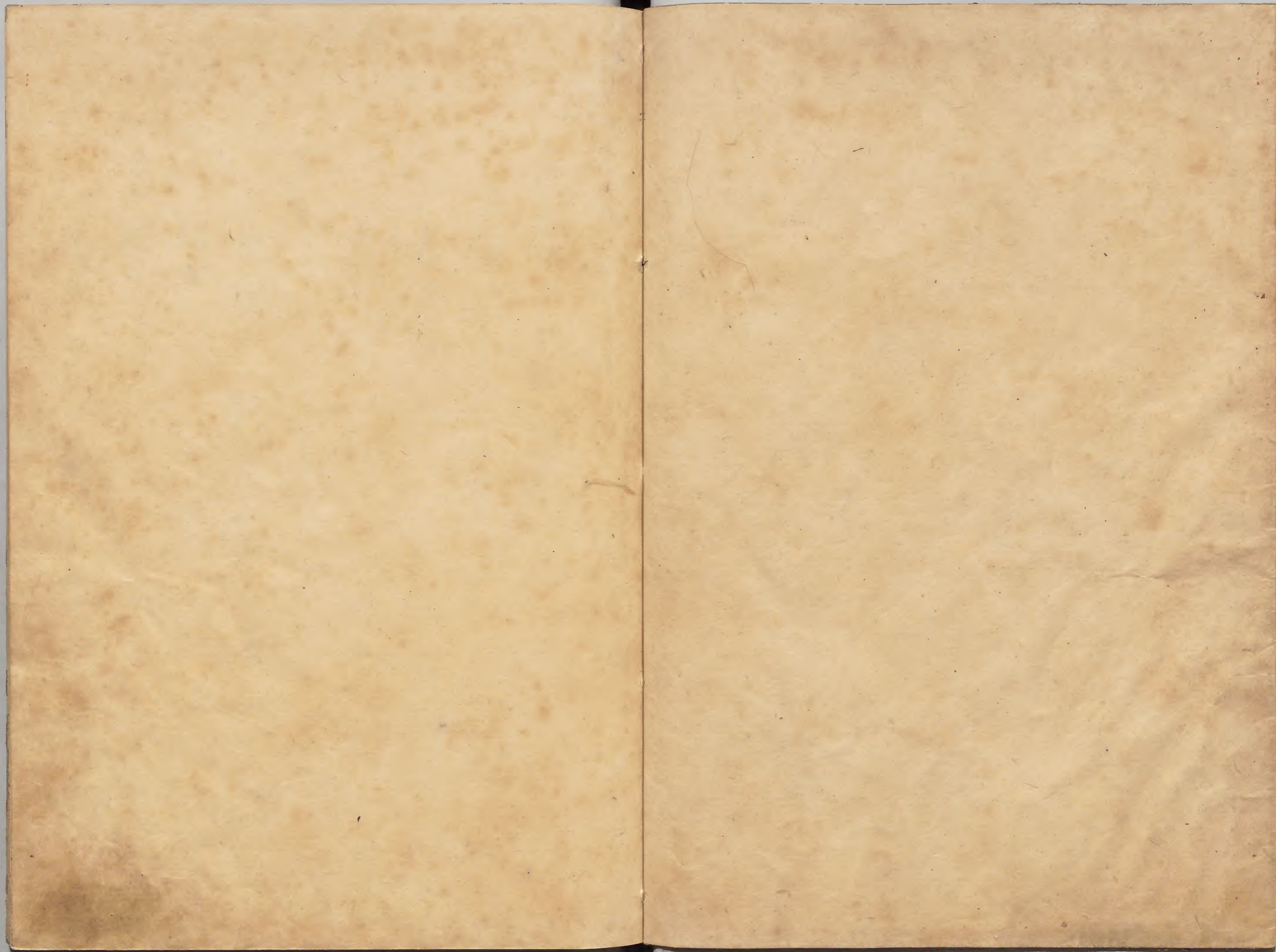
83

# 寛永諸家譜

清和源氏庚八冊之内  
義光流之内逸見流

内閣文庫	
番號	和 20199
冊數	186 ( 38 )
函號	特 76 1





逸見

溝口

飯田

青沼

寛永諸家系圖傳

清和源氏

庚二

義光流

逸見

義光

常陸公

新経之郎と号す

義清

刑部三郎

神と逸見と号す

淺草文庫

甲列 こうりつ 書 しよ 島 しま の 配流 はいりゅう せしむ 四十九歳 しゅうじゅうきゅうさい  
み み の 判 はん 發 はつ

清光 きよみつ

逸見冠者 いつみのかむらじ

光長 みつなが

逸見左郎 いつみさぶらう

上総 こうそう 外 ほか

基義 もとよし

左郎 さぶらう

惟義 ただよし

左郎 さぶらう

法名 ほふな 為 な 忠 ただ

義重 よししげ

又 また 左郎 さぶらう

法名 ほふな 白蓮 はくれん

重氏 ちがし

又三郎 またさんらう

定心 じやうしん

逸見大業 えんみおおくさ

法名

重正 ちがまさ

源五郎 又右郎 甲列逸見 げんごらう またみぎらう かつらぎ えんみ

義高 ぎたか

右右左衛尉 みぎみぎざゑい

義系 ぎけい

又右郎 またみぎらう

義房 ぎぶ

源五郎 げんごらう

義仲 ぎちゆう

源右郎 げんみぎらう

義治 ぎぢ

源三郎 げんさんらう

義通 よしみち

源左衛門

義忠 よしみち

源右衛門

上総守

生五 甲斐

法名 宗順 むねのり

のり 後、武列、秩父郡、後、小糸安房守、  
よ属 かく

義久 よひひさ

四良左衛門

生五 武藏 秩父

えん 天文十三年、小糸安房守、よ属、  
武列、廣木、此、武、討死、二十六歳、  
法名、道隆 みちたか

義次 よしつぐ

小笠原左衛門尉 生五 河内

小糸安房守 膳下ノ属寸

文禄元年 肥列名護屋におおき

大権現義次が子義助に命を下さす

義次を汝が飲肉におおきの夕暮川

いするを一との上さなり

同二年九月 駿府よりいする時小

大権現大久保石見守と 修る義次

とお別中糸に居候せし居し

とたりあらしとらる義次をいひ

なり寸して同月十二日病死四十八  
法名傳永

義助

跡吉 右兵衛尉 生玉武藏 針形

大権現一めしいごさる

文禄元年三月 朝鮮へ教向の別

大権現沖信しいけ別名護屋

いする

寛永五年一圓ヶ原合戦の時

大権現の供をす

元和元年五月大坂陣の供  
を勅じ

寛永元年三月廿七日病歿時

五十三歳 法名道福

忠助

備前守 河原左衛門尉 生玉河守

寛永九年十月十五日歿す

白蓮院教を有す

同十八年伏見北城法着を勅じ

元和元年大坂陣のとき北牧野

内廷御座中より一軍事を

法とす

義記

小田郡 市ノ座 生玉相摸波多野



寛永十五年九月十日勅

白法院教不<sup>あり</sup>端<sup>あり</sup>なる

大坂西度の津陣

白法院教津陣<sup>に</sup>い<sup>て</sup>軍<sup>に</sup>事<sup>を</sup>勸<sup>む</sup>

義元

八十郎

生<sup>む</sup>武<sup>たけ</sup>義<sup>よし</sup>元<sup>もと</sup>江戸

寛永十三年十月廿九日勅

將軍<sup>を</sup>有<sup>り</sup>なる

義重

勘右衛門

生<sup>む</sup>五<sup>ご</sup>河<sup>か</sup>家<sup>け</sup>

寛永十二年六月十九日勅

白法院教<sup>を</sup>有<sup>り</sup>端<sup>あり</sup>なる

同十九年大坂津陣<sup>に</sup>い<sup>て</sup>軍<sup>に</sup>事<sup>を</sup>勸<sup>む</sup>

寛永十六年病歿五十一歳<sup>法名</sup>

傳<sup>へ</sup>霜<sup>しも</sup>

義持よしまさ

左源太ひだり

右五河みぎごがわ

寛永十七年五月けicho

台法院教一洗たいふいん

寛永元年けicho父義助ちちよすけの遺政いせいをつく

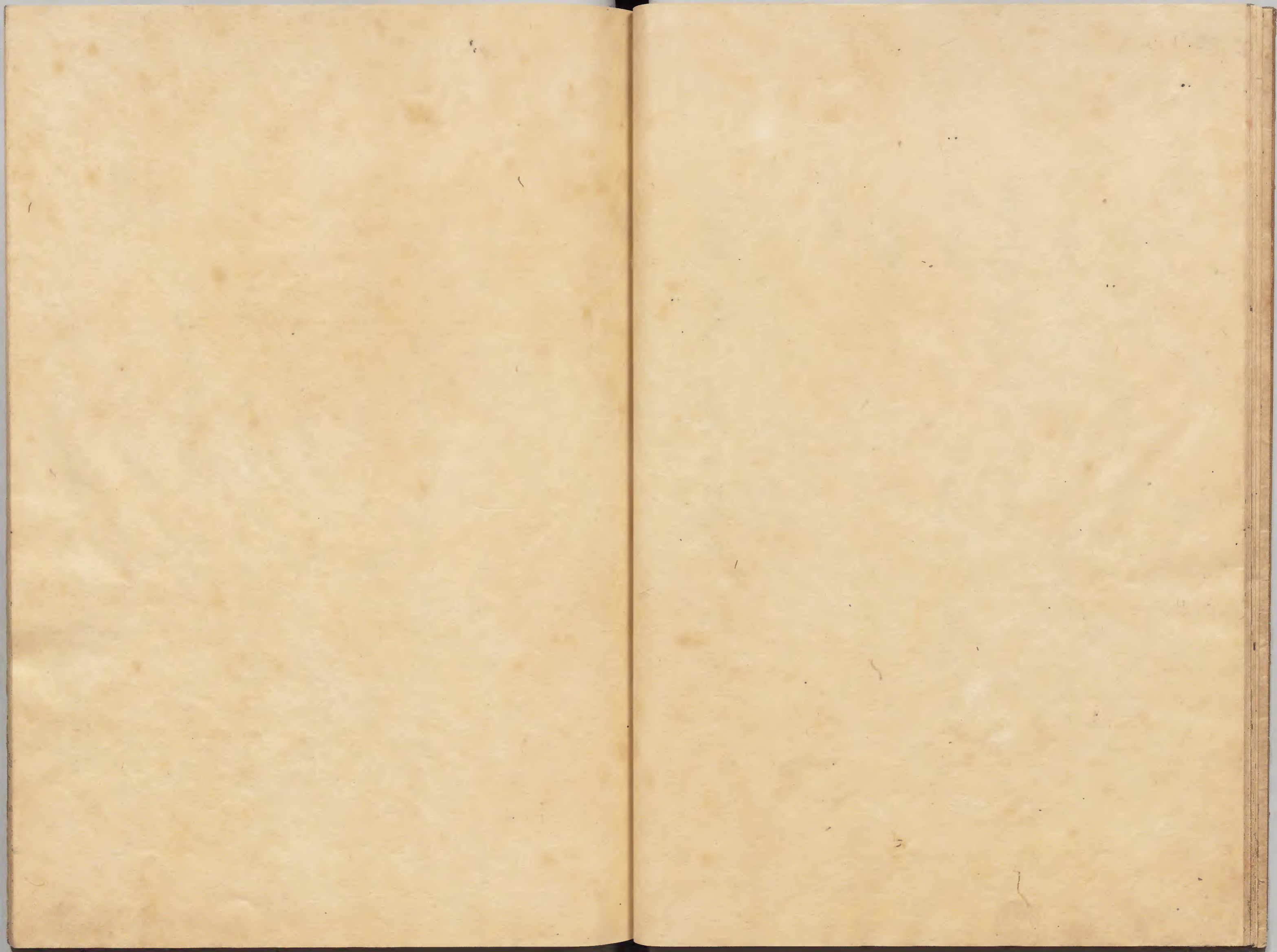
義貴よしかた

右左衛門みぎざゑもん 右五河みぎごがわ

寛永十六年三月けicho廿五日にじゅうごにち御ご

お軍おぐん家いへと相あひま傳つたへ父ちちの遺政いせいをつく

家のいへの義よ家け



● 猪政 しうせい

彦右衛門尉

尾別溝口の御と領寸

溝口 みづぐち

先祖 せんぞ 重見 しげみ 又 また 左郎 さろう 義重 ぎしゅう 義久 ぎきう 礼 れい  
の軍功 ぐんこう に よ りて よ 溝列 みづり 大業 おおくま の御 ご  
と な ま り て り け る 代 たい 々 く 英法 えいぽう  
と り 寸 すん 々の ご ち は 尾別 おしべ 溝口 みづぐち の ご 御 ご  
に り 領 りやう 寸 すん 板 いた 氏 うぢ と し 溝口 みづぐち と し 号 ごう 寸 すん

天正元年死去 法名津果

秀勝 ひでかつ

童名竹 こゝいな たけ 伯耆守 さくまのこ 生玉尾張 おひり

幼少の時丹羽 いさの ありて長瀨 ながせ 尉長秀 むらひて

属才 そくさい

天正九年織田信長 おだののぶなが 一ツ ひとつ 出 で せられ せられ

別 わか れ れ 逸見 えんみ 駿河 すまの 守 まも り り 職 しやく と と した した

り り 高濱 たかひら の の 城 しろ へ へ 飛 と 上 の上 信長 のぶなが の の 津 つ 果 つみ

平 ひら い い ま ま へ へ 一 ひとつ 通 とほ り

同十一年 どうじゅういちねん 秀吉 ひでゆき 兼 かね 田 のり 合 あ 戦 いくさ 乃 なり

時 とき 秀 ひで 勝 かつ 前 まへ 別 わか り り 越 こ 前 の の の 教 しやく 賀 が 一 ひとつ 乃 なり

押 おし り り 心 こころ 一 ひとつ 乃 なり 秀 ひで 吉 ゆき 一 ひとつ 乃 なり 忠 ちゆう 告 こく

を を 守 まも り り の の 功 こう 一 ひとつ 乃 なり 賀 が 別 わか り り 大 だい 守 まも り

の の 城 しろ 乃 なり 一 ひとつ 乃 なり 江 え 沼 ぬま 能 の 美 み 郡 ぐん の の 内 うち 乃 なり

て て 守 まも り り 乃 なり 名 な 地 ぢ と と た た ま ま 一 ひとつ 乃 なり 秀 ひで 吉 ゆき

の の 津 つ 果 つみ 一 ひとつ 乃 なり 不 ふ 守 まも り

同十四年 どうじゅうしねん 秀吉 ひでゆき の の 伯 はく 耆 し 守 まも り り 津 つ 果 つみ 一 ひとつ 乃 なり

小叙こぎ——豊臣とよとみの姓ななされ秀ひで秀との字なを  
たまりり

文治三年ぶんじの三年賀か賀か別べつ大勝寺たいしょうじ此城このちを攻あめ

ため越こ後ご五ご新しん殺ころ田たの城ちやうより一いつ万まん

六ろく万まん石せきの加か増ぞうとたまりり秀ひで吉よし直ちやくの御ご弟てい也

うまひりり

同五年どうごねん上かみ杉すぎ系けい孫そん孫そん友ともとくしりり

時

東照大権現とうしょうだいこんげんの命めいとらけたまりりて先まへ

陣ぢんをうう今いま津つ境けい津つ川がわ口ぐちままとく海うみ

うりじふうりじふの所ところより系けい孫そん孫そん越こ後ごの郡ぐん民たみよ

いひついひつをうう一いつ揆けいとおおいいししひひりりのの時とき

秀ひで吉よし直ちやくのの大たい河がををううりり命めい殺ころとい

うう賊ぞく堂だうををううちちちち寸すんううののちち城じやう

迹こ等ら堀ほり監けん物ぶつがが岳たけ球たま三さん系けいををかかここむむり

りり秀ひで吉よし直ちやくききひひてて坂さか浩こうととてて攻あ地ちよ

おおりりじじくくれれ不ふよよ一いつ揆けい等らああれれををままききて

途みちささりりのの另また一いつ揆けいのの在あ家い屋やききここししり

ひく<sup>ふだ</sup>陣<sup>のらみぎ</sup>の<sup>り</sup>後<sup>みぎ</sup>太<sup>のら</sup>の<sup>みぎ</sup>勢<sup>のら</sup>じ<sup>のら</sup>ま<sup>のら</sup>じ<sup>のら</sup>し<sup>のら</sup>く<sup>のら</sup>し<sup>のら</sup>ん<sup>のら</sup>  
源<sup>のら</sup>を<sup>のら</sup>と<sup>のら</sup>い<sup>のら</sup>す

同<sup>のら</sup>十<sup>のら</sup>五<sup>のら</sup>年<sup>のら</sup>六<sup>のら</sup>十<sup>のら</sup>三<sup>のら</sup>歳<sup>のら</sup>に<sup>のら</sup>く<sup>のら</sup>病<sup>のら</sup>死<sup>のら</sup> 法<sup>のら</sup>名<sup>のら</sup>  
淨<sup>のら</sup>見<sup>のら</sup>

宣<sup>のら</sup>播<sup>のら</sup>

父<sup>のら</sup>昭<sup>のら</sup>正<sup>のら</sup> 伯<sup>のら</sup>耆<sup>のら</sup>忠<sup>のら</sup> 生<sup>のら</sup>玉<sup>のら</sup>美<sup>のら</sup>狭<sup>のら</sup>

母<sup>のら</sup>八<sup>のら</sup>井<sup>のら</sup>源<sup>のら</sup>七<sup>のら</sup>七<sup>のら</sup>五<sup>のら</sup>美<sup>のら</sup>

交<sup>のら</sup>七<sup>のら</sup>二<sup>のら</sup>年<sup>のら</sup>秀<sup>のら</sup>吉<sup>のら</sup>の<sup>のら</sup>命<sup>のら</sup>に<sup>のら</sup>り<sup>のら</sup>法<sup>のら</sup>五<sup>のら</sup>結<sup>のら</sup>下<sup>のら</sup>

小<sup>のら</sup>叙<sup>のら</sup>一<sup>のら</sup>秀<sup>のら</sup>の<sup>のら</sup>字<sup>のら</sup>と<sup>のら</sup>に<sup>のら</sup>ま<sup>のら</sup>り<sup>のら</sup>秀<sup>のら</sup>信<sup>のら</sup>と<sup>のら</sup>号<sup>のら</sup>す

後<sup>のら</sup>一<sup>のら</sup>宣<sup>のら</sup>播<sup>のら</sup>と<sup>のら</sup>い<sup>のら</sup>は<sup>のら</sup>す

同<sup>のら</sup>五<sup>のら</sup>年<sup>のら</sup>余<sup>のら</sup>津<sup>のら</sup>津<sup>のら</sup>陣<sup>のら</sup>の<sup>のら</sup>別<sup>のら</sup>又<sup>のら</sup>秀<sup>のら</sup>播<sup>のら</sup>と<sup>のら</sup>す

一<sup>のら</sup>所<sup>のら</sup>一<sup>のら</sup>揆<sup>のら</sup>と<sup>のら</sup>返<sup>のら</sup>治<sup>のら</sup>す

又<sup>のら</sup>秀<sup>のら</sup>播<sup>のら</sup>存<sup>のら</sup>生<sup>のら</sup>の<sup>のら</sup>時<sup>のら</sup>知<sup>のら</sup>約<sup>のら</sup>七<sup>のら</sup>子<sup>のら</sup>石<sup>のら</sup>と<sup>のら</sup>宣<sup>のら</sup>播<sup>のら</sup>

よ<sup>のら</sup>は<sup>のら</sup>り<sup>のら</sup>一<sup>のら</sup>五<sup>のら</sup>子<sup>のら</sup>石<sup>のら</sup>と<sup>のら</sup>二<sup>のら</sup>男<sup>のら</sup>秀<sup>のら</sup>播<sup>のら</sup>に<sup>のら</sup>行<sup>のら</sup>く

い<sup>のら</sup>す<sup>のら</sup>秀<sup>のら</sup>播<sup>のら</sup>卒<sup>のら</sup>一<sup>のら</sup>て<sup>のら</sup>の<sup>のら</sup>り<sup>のら</sup>秀<sup>のら</sup>播<sup>のら</sup>い<sup>のら</sup>り<sup>のら</sup>く

秀<sup>のら</sup>播<sup>のら</sup>り<sup>のら</sup>り<sup>のら</sup>り<sup>のら</sup>り<sup>のら</sup>の<sup>のら</sup>地<sup>のら</sup>皆<sup>のら</sup>以<sup>のら</sup>て<sup>のら</sup>宣<sup>のら</sup>

勝<sup>のら</sup>よ<sup>のら</sup>一<sup>のら</sup>て<sup>のら</sup>秀<sup>のら</sup>播<sup>のら</sup>宣<sup>のら</sup>播<sup>のら</sup>ゆ<sup>のら</sup>つ<sup>のら</sup>り<sup>のら</sup>と<sup>のら</sup>す

しうげんこふ宣給ぐいり家父の家  
督とけくえいはけのふをまたる處に  
善給ハ在りし戸うらむこのる不似す  
こーきまの沖を公はとあがし  
父の讓のうふ宣給加増す魚このよ  
しんひれとも善給辭してうけす  
こまきあり  
右法院教(まよ)けきハ名なり不い  
つても理(ま)りまると沖感りえ堂

給ぐまとのひのよ假せらま六万二千  
石の内五万石宣給し下され一萬二千  
石善給有給す  
同十九年一上坂沙陣の時 鉤合よ  
しり江戸の沖留ちまゆりり作  
元和えま大坂専乱の時越後が忠  
輝(ま)に属して沖陣をつとむ  
寛永五年一歳四十七年法名善莫



善勝

孫右衛門尉

伴豆吉

生玉貞列

大徳寺

母ハ豆吉ノおと

夏廿六日十八歳にして

大徳院を有しあり

白法院教小治人あり

同十年

大徳院の納金より後五箇下に叙し

伴豆吉に任す

同十四年

白法院教より上野五耳系郡の内にて

二子石の地をたす

同十五年父秀吉卒して後六百二

千石の内一百二十石

白法院教より有給しう郡合二百石

石あり

同十九年大坂陣の時出陣大炊頭

利緒よりみし供を以て大坂本

津口の舟とありし平なるこのしほ

釣命とうけたまはり侍表に在番す

翌年津陣の時も侍をす

寛永四年八月より翌年八月ま

て大坂の御番を勤じ

同十年

將軍家の釣命より五歳内をへび

田舎紀伊伊勢伊賀の五よりをう

とむ

同十一年五十一歳あり卒す 法名  
乃徹

女子

中院大納言通村の室通純の母

政務

全十郎 生玉武苑

母はあ田封馬と長持女

元和八年

台法院教とあり くせ あり せ あり

將軍家一洗之たて あり あり あり あり あり あり

寛永十一年

將軍家の命より あり あり あり あり あり あり

田子石此内 あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり

同十九年 鈞命より あり あり あり あり あり あり

善と洗と

改良 せいりょう

金助 母ハ溝口伯耆守室孫女 あり あり あり あり あり あり

助務 すけつむ

権佐 生五武藏 あり あり あり あり あり あり

母ハ政務よ あり あり あり あり あり あり

寛永四年

台法院教一清月見時よ十七歳

同十一年より

將軍家一統之あり

同年父善徳よしとくがまゝの地ちを相承す

善徳よしとく

九十郎 生國なかつくにのあり

母ハ上ノおなり

寛永十一年

將軍家一統目見時ノ十六年

同年父善勝よしとくがまゝの地ちを相承す

善勝よしとく

八十郎 生國なかつくにのあり

母ハ上におなり

寛永十六年

將軍家一統目見時ノ十八年

寛永

のりり

出雲守

母ハ堀右衛門 徳重 政女

寛永十六年七月

台法院殿へ御目見 聖年

大権現を詣り 参り

寛永元年

將軍家の御命ふく 後立位下に叙

出雲守小任寸

同五年父宣播 御職と為給寸時 願

地の内より 田北のうら 出 一万五千

五百名あり 宣直才三人より

たきふ

寛永

久三郎

母ハ森川 出羽守 重後 女

寛永十七年 八歳より

將軍家へ清目兄

女子

母稲葉民部少輔一通女

宣秋

又十郎 母八上におか

元和八年十元業

台酒院教へ清目兄翌年

將軍家とありなり

寛永五丁亥宣勝率一して後銘地

のうら六千石有銘寸

系

官松 母八上保右衛門亮教隆女

系

新 母八上

宣後 ノリ

内紀 ノリ 母ハ上ノ母

元和八年十一月某日

台法院教へ清目足羽年 ノリ

將軍家とあり

寛永五年父率して後給地の因

五子石物給寸

系 ノリ

長吉 母ハ井ノ深路与痛名女

系

長吉 母ハ上ノ母

宣知 ノリ

長京 母ハ上ノ母

寛永五年十一月某日

台法院教へ清目足りのち

女子

將軍家一法入事

同年父意播率のりまきりして後領地の内

四千五百石を領す

母は上戸

長谷川縫殿助妻

家紋 榎柳菱



● 有次 ありつぎ

右馬允 ひまの ぎ 生五甲斐 い 飯田 いひだ を能す  
信虎 のぶとら 信玄 のぶのぶ 二代 にだい として して 病死 びやうし

飯田 いひだ

逸見 えんみの 四郎 しろう 源貞長 げんぢやう 末葉 まつは 甲別 かべつ 飯田 いひだ  
と能 と 一 一 祿号 ろくごう とす

昌在 まさなり

じまのき

大正助

生玉回春

あち 猪熊之流

天正年中

大樽現甲列一沛教向の時昌在初

あち ねーちりうのち

台法院殿より流るる

交長十九多大坂沛陣の時病氣なり

といとも沛陣仕陣屋におおる病死

昌重 まさしげ

次郎右衛門

生玉武藏

寛永元年

台法院殿へあし流るる

在久 あひひさ

清右衛門 生玉甲斐

台法院殿

將軍家由二代（清久）重方

在勝 ひら

三套 生玉武翁

將軍家（清久）重方

ひら 家紋 割菱

昌世 まさよ

肥後守 ひごのり

生玉河守

法名来精 りやうらいしゆ

昌吉 まさきち

逸見彌後守 たけみ やしごのり

生玉甲別

武田信虎小治承 たけだ のぶとら こしげ

喜派 きはい

信虎より武田の家紋割菱を世にた  
まひ神く青沼と号す

昌平

助多清尉 生玉河家 法名梅鉄  
信吾孫頼より

昌奥

信吾孫頼より  
法名梅鉄

信吾孫頼より

天正十年

大権現甲別 沖入玉の

台法院教小法久

元和八日三月病死 法名常盤

昌長

右近 生玉河家

天正十年

大権現といを御ごなり

台徳院殿

將軍家ごうぐんけの法はふ人にんなり

正歳まこととし

友右衛門ともえもん 生玉武藏なまたまむさし

夏なつ七月しちがつ一日いちにち

台徳院殿

將軍家ごうぐんけの法はふ人にんなり

家紋けもん割わり菱りやう

